

李登輝先生を偲ぶ

本会の李登輝先生を偲ぶ活動や本号の内容、今後の活動について

本誌編集部

二〇二〇年（令和二年）七月三十日
午後八時二四分（日本時間七時二四分）、李登輝元総統がお亡くなりになりました。満九十七歳でした。

昨年二月八日夜、牛乳の誤嚥ごえんにより咳が止まらず、吐き気を訴えたことから、掛かり付けの台北榮民総医院に搬送、入院されました。若いころ肺結核を患われたことから肺炎を起こしやすく、病状が肺浸潤から肺炎に進行したため、ご家族以外は面会をお断りしていたそうです。武漢肺炎こと新型コロナウイルス感染症が蔓延したこともあり、李登輝先生は退院することなく、多臓器不全のため身罷られました。私ども日本李登輝友の会は、李登輝先生が唱えられた「日台運命共同体」

の理念に共鳴し、二〇〇二年（平成十四年）十二月十五日に設立されました。東京都内のホテル・オークラで開催した設立総会において、李登輝先生にはインターネット中継で「台湾精神と日本精神」と題して記念講演していただいで以来、毎年春秋に台湾で開催の「日本李登輝学校台湾研修団」や年一度の「役員・支部長訪台団」などを通じ、李登輝先生からは文字どおり筆舌に尽くせぬご恩顧を賜りました。訪台ばかりでなく、総統を退任されてから九回に及ぶご来日に際しては二〇〇七年から直接間接に関わり、招聘元としてお招きしたこともあります。その都度、感銘深いご講話を賜りました。深く感謝申し上げ、改めてご冥福

をお祈り申し上げます。

いまでも西郷隆盛に南洲会があり、坂本龍馬に龍馬の会があるように、日本李登輝友の会は今後も「李登輝精神」を体し、日台関係のさらなる深化を目指して「躬行実践」を旨に、これまでどおり活動を続けてまいります。

このことは、李登輝先生の埋葬式が五指山軍人墓地（國軍示範公墓）で斎行された昨年十月七日、「産経新聞」の全面を使い、四百五十名の個人と十三法人のご賛同をいただいで、李登輝先生追悼特別企画として「李登輝先生、ありがとうございました！ 真多謝！」（表紙3参照）を掲載してお知らせ致しました。ご賛同いただいた方々に改めて御礼申し上げます。



お亡くなりになってから、台湾政府は台北賓館に追悼献花台を設け、日本でも台北駐日経済文化代表処などが追悼記帳所を設けました。本会でも、いち早く愛知県支部がインターネットを使ったオンライン記帳台を設け、宮城県支部と熊本県支部が記帳所を開設、北海道道央支部も記帳を募りました。また岡山県支部、北海道道央支部、岐阜県支部、埼玉県支部、鹿児島県支部が偲ぶ会を催しました。



本部も毎年十二月に開く恒例の「日台共栄の夕べ」は偲ぶ会を兼ねて開催し、ご遺影を掲げた祭壇に献花していただきました。また、ご参加の皆さま全員に、左に掲げた李登輝先生のご遺影二枚を「ポケット・アルバム」として謹呈させていただきました。

機関誌『日台共栄』も今号は李登輝先生追悼特集号とし、李登輝先生秘書の早川友久氏と全国市長会前会長の松浦正人氏、並びに会長、副会長、常務

理事の全員に寄稿していただき、偲ぶ会を開催した五支部からも「支部だより」としてご報告いただきました。

今後は有縁の方々をパネリストとしてお招きして「追悼シンポジウム」を開催し、李登輝先生の偉業の意義などについてお話しいただく予定です。

また、コロナ禍が収まって訪台できるようになれば、いの一に五指山軍人墓地へお墓参りし、李登輝学校研修団も再開しようと考えています。